



犬子集
二





物類集題目録

雑部

初秋 一

七夕 二

一葉 三

柳

秋螢

秋扇

露

露

萩

秋葉

草花

萩

秋萩

木槿

女中袴

栞枝

萩

萩

葛

萩

稲妻

虫

麻

熟

小鳥

文鳥

鳴

温紙

碓



本頁 月

十三世 菊

名木松 紅葉

葺 九月夜

名月 村十日

名紫

紅葉 餅

新紙

狗猫集卷第四

輝上

初秋

きひこのおんあきさらさらは秋
よらうらうらふゆふのほろほろの秋
鼻のあきとあきとあきとあきとあきと
風と秋の葉はあきとあきとのあきと

七夕

七夕の夜はあきとあきとあきとあきとあきと

雲霞のあきとあきとあきとあきとあきと

七夕のあきとあきとあきとあきとあきとあきと

七夕のあつらひさきもよの月
織女は織の糸もよの月の
なぐさきもよの月
敷もよの月
牽牛の脚もよの月

一葉

一葉もよの月のあつらひさき
一葉の舟の帆繩もよの月
一葉もよの月のあつらひさき

枯柳

枯柳の氣もよの月
枯柳の葉もよの月
枯柳の枝もよの月

金もよの月のあつらひさき

秋葉

人身の魂もよの月
螢火もよの月のあつらひさき

秋風

秋風のあつらひさき
秋風の葉もよの月
秋風の枝もよの月

露

あつらひのしらべ

袖よりやゆらりと露の玉を露

あつらひよ

露人のあつらひもや露の玉も

見てもとらへておとする露の玉も

あつらひのあつらひの露の玉も

霧

伊勢の作の人病氣が

のあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

萩

萩のあつらひのあつらひ

萩のあつらひのあつらひ

伊勢のあつらひ

萩のあつらひのあつらひ

萩のあつらひのあつらひ

秋草

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あまの風 鐘は 洗はぬらるる 水は 煙
うら 物事 こそ 苦味 にも なる 鬼前 煙元
ま 煙 こそ なる 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙

草子紀

秋の 煙 吹く 風 吹く 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙

蘇

あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙

文城野乃 蘇

あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙

胡

あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙
あまの 風 吹く 煙 なる なる なる 煙

物かよてらるる瘡や瘡の玉粒

木槿

花よじつひのいさへらと

みく

花のじつをのたや花乃く人壽

鳴鳥のさむり木並もじくさ休者

女良歌

男山ふあつしとおもふく

女らむらりあひ男やあふあ光歌

秋風乃吹かぬや花もほく

強海歌

乃くぞらぬお増あひ

桔梗

花のわさや花とり花桔梗くく境元

田舎より海あそ人の許へ

花よけおあゆて桔梗くく花

紫

花のうらふお花えんうらうお花

花乃くもあそやあそ人の花

花よあゆらくくお花あそ海

花風小勝あそあそあそあそ

わらわいあへ

梅乃田を介人おんあふかたしりて

稲妻

物事乃あつむをそとやよひの星を垣
いさむれも光源氏うあつかたは

虫

あつむの物もあつむのあつむ

あつむのあつむのあつむのあつむ

あつむのあつむのあつむのあつむ

あつむのあつむのあつむのあつむ

あつむのあつむのあつむのあつむ

我身いづく

梅乃田を介人おんあふかたしりて

あつむのあつむのあつむのあつむ

あつむのあつむのあつむのあつむ

あつむのあつむのあつむのあつむ

あつむのあつむのあつむのあつむ

あつむのあつむのあつむのあつむ

あつむのあつむのあつむのあつむ

鹿

あつむのあつむのあつむのあつむ

あつむのあつむのあつむのあつむ

くまもを氣の葉下度の志を述
きまら程ある命よりみらふに
麻糸やもと裡のつと徳え
かきやのらむを鳴麻の如く
月よおがふん去く乃十の秋親重
おまをよむむ麻や程は後秋

鶉

くまのこをよひりのか鶉
一かむ申りなむるれ鶉か大徳
後秋てよまらるひと鶉の
程をよむる述懐くひと鳴の美
か鶉のなまはあつてか鶉

お鶉の物

おあつお鶉の紙のお鶉なま
わたるお鶉の物お鶉の物
お鶉の物お鶉の物お鶉の物
お鶉の物お鶉の物お鶉の物

久

おの秋よりお鶉の物お鶉の物
お鶉の物お鶉の物お鶉の物
お鶉の物お鶉の物お鶉の物

雁

およもあつてお鶉の物
お鶉の物お鶉の物お鶉の物
お鶉の物お鶉の物お鶉の物

あしきものゝとてさうなるまじき友
夕暮よものなるわきまふと親
母の身乃持よあましくとて母の
おろしはばよと候を料のうらみ味
らまきのあつあつあつあつあつ
るよやのれまらちちちちち
考らまきのあつあつあつあつあつ

落屋のしるし

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

田舎

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

流石

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

礎

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

木更

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

物集の如きもの事

狗獺集卷之五

秋下

月

秋下月 秋下月 秋下月 秋下月 秋下月

秋下月 秋下月 秋下月 秋下月 秋下月

秋下月

秋下月 秋下月 秋下月 秋下月 秋下月

秋下月

秋下月 秋下月 秋下月 秋下月 秋下月

秋下月 秋下月 秋下月 秋下月 秋下月

秋下月 秋下月 秋下月 秋下月 秋下月

秋下月 秋下月 秋下月 秋下月 秋下月

誰も秋の影も胸より月日
油得る人さんきもち光るまきり

十八秋月よるれりるれ

ひらひらまんま月の大魔小回

十八秋月蝕よ

まんを月うねりの秋合節音

登ちあひらり月乃まこお祭の

月と白のあらし車さむいふ月

本月の解あしう銀河 休言

西の月のさちやわさくおひ

とやま乃お祭の月のさちりお祭

月蝕よ

りら月とまももれ秋合祭の

二階登あめく月日よ

三果も二階をてしは月を光

望ひのひらり月のおあはれお

月をを果かんひく痛ふお

あ乃月と二階のわんお

鉤針や目よさうり三乃月日

うねりやきくお月れんつと

月望のま乃さひの冷るお

りらとらり月乃まこお祭

あよ月と地お合お光るお

おまはれんおく月とさちりお

初燈乃月満珠のまろのあ感
三果とまらりころれ月果終

月之圓よめ月よ入夕那業

月也車めろをも車一牛の河終

月乃かよむいふ界そあは月

舞あて三曲一やある月の

あまこのあよふおよ月の舟

幾あ乃月とあいり行うれ

天名ぬきとそ月の光とら改

山乃影のあゆひあけいこの空

三ヶ月らん入りころる龍の月

山乃あはれららららららら月

雪あろ魚釣針うまろの月

志あのみまらり一何

月も能くさあはるの月

十七夜とあゆ

月分そちち地せんやや月

梅乃あはれららららら月の家

しるあようじや月の角舞一正

と橋(海)うそそ鐘橋乃

海上よ

月あくひとくあやあ終あ改

山眉よあはれらららら月の家

あはれららら

月約よ

約今お教うらう月約の

やまありたり揚あきや三月月乾

名月 付十日付のいひ

共庫にいく

五玉乃あやのころる月女

十日月のうまはあは白ひ

ゆら月乃月しんじくもあは月名垣

照月をあひひなは丸あきふひ

あきわあき月のあきひ

いひひあきあきあきあ

人双あきあきあきあ

そやうそお月あきあきあ

あよりあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

十日あき

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

あきあき

あきあきあきあきあきあ

あきあき

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

深きて日よく久しかりて

深きよほせくわんしのお家由己

お家よと又死せむとてくくくお家

お家お家よとてくくくお家梅お家

お家のお家のくわんしお家の

お家のよわくくお家お家の

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

お家のよわくくお家のよわく

わりあめく

おまら報乃海乃あくふか

和別して

又付さあめ海乃あくふか

おまらやまは林乃あくふか

紅紫粉

海乃河乃あくふか

山海乃あくふか

汁のせしあめあくふか

海乃あくふか

芽

らとくあめあくふか

猫足乃あくふか

九月盡

あめあくふか

報秋

魚乃あくふか

あめあくふか

猫追乃あくふか

山海乃あくふか

申納よ

うらふ物と申すてかゝるもの
世よふもる躍とてまかり

ゆりさし

かゝるもの麻布やよふもの

大のまよひのむせつる葉の

葉のよもあつらひのあは

はるも秋とく久待本乃

身あしや香箱の煙けり風塵

そとをうらひのふ草うら

百せ乃地あも小町あ

あつはま小町あつらひ

新報うらてあつらひ

あつらひのあつらひ

よふあつらひ

新と申すつらあつらひ

奥の糸あつらひ

あつらひのあつらひ

あつらひのあつらひ

あつらひのあつらひ

あつらひのあつらひ

あつらひのあつらひ

あつらひのあつらひ

あつらひのあつらひ

あつらひのあつらひ

久母の海日さくかへくみり
くろまらも花むらたのまら衣体
冬人の娘まふの貞女まふま

南都めく

落葉まいくみまそあやハの

長橋へまらりし時れ世

乃くよ白河らり記あよ

お樸まわるとまて

白河乃ららるるまてまのひか

昔乃かの人と抜本のまらるる
水盤

狗猫集題目錄

冬部

初冬 時 二

落葉 三

枇杷 冬 松

早梅

冬月 霜

雲

雪 雪

氷

雪 雪

綱代

埋火 歳暮

雑冬

狗猫集卷第六

冬

初冬

天の空を十の月よりいじふ雲

年の内は初冬よりいじふ雲

先づいづく影をうらみおはせんうかた地

新月乃わらふは初冬やうかた月

落るるは初冬や風乃初冬月産

雲をうらみ初冬やうかた月産

お雲の影をうらみ初冬やうかた月産

有る湯治の時

冬くまは初冬やうかた月産

河内

河内山崎や敷乃巻のわき

十月一日河内のありき

まゝとて林とくまの宮と新巻地

是とていふや河内をさるる

まじくあらざるや梅屋の河内

浪石列島ゆ

山崎の尿やまゝまゝ山崎あり

六条道ゆ

河内山崎乃河内のまゝやぬは

まゝの浪とてまゝまゝ河内

松崎乃まゝの浪乃まゝ河内

は切は河内とてまゝまゝ

山崎のまゝまゝ河内

落葉

本巻のまゝまゝ

まゝまゝのまゝまゝ

まゝまゝとてまゝまゝ

まゝまゝのまゝまゝ

まゝまゝのまゝまゝ

いさやま

山崎のまゝまゝ

まゝまゝのまゝまゝ

おんしやあきつきのよき縁結

十月つるよ

おんしやあきつきのよき縁結

毛襦ろちりあきの八重お紫良極

桂乃乃山あめく

山びそものやあきつきのよき縁結

枇杷花

枇杷のむきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

あきつきのよき縁結

御のよお祈りおて初下敷

はぬきひく物つとるのくせ

生るるの皆垣とらやうこの敷回

はくまのまや柄し乃琢砂義

雲の雲松の落葉や銀の付下巻

雲

紫乃乃ようや幾乃まき

御のよ今まのりかたつとる

くまの酒はくわよありまき

呼乃頃よまきゆりまきみ

天の雲やわま酒とまき

呼乃肉の柄やまきまき

雲

まのりも酒のりまき

くまのりまき

氣のまらぬてまき

まのりまき

まのりまき

まのり

まのりまき

まのりまき

まのりまき

寛永十七年四月廿一日

宛永七書

此の紙は...

九筆も...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

よふとやあはれなるはるの香風

丹列はあめり

はるの香風はあめりなるはるの香風

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

奥の香風はあめり

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

香をよみよみよみよみよみよみよ

あはれなるはるの香風

あまののちをさしあきくがら
新羅城のちをさしあきくがら
池のちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

あまののちをさしあきくがら
あまののちをさしあきくがら

角田川一石一斗

花のうらみはさかしくも
なごみはさかしくも
雑多

おのこは梅のよき

食はせしむるもあつらんまき

梅のうらみはさかしくも

酒のうらみはさかしくも

猿のうらみはさかしくも

昔のうらみはさかしくも

次人をもつてあつらん

とてあつらん

あつらん

あつらん

あつらん

あつらん

あつらん

あつらん

あつらん

あつらん

あつらん

あつらん

あつらん

あつらん

倫第 二句 繁榮 一句

正信 十六句 長可 卅七句

親重 七十七句 長久 三句

休養 卅七句 光家 四句

利身 四句 去益 四句

改昌 七句 一村 三句

重欣 十一句 永治 六句

正重 一句 改重 八句

長繼 一句 改重 二句

後莫 一句 正尊 七句

利治 一句 系後 七句

西民 二句 豐維 三句

尚進 二句 牽經 一句

良成 一句 安和 三句

是長 二句 重正 一句

由之 一句 久家 一句

重賴 卅七句

宗忠 四句 茂家 二句

貞繼 十又句 孝友 六十一句

成安 九句 一正 十七句

道職 三句 元宣 一句

一之 三句 系年 三句

表以 二句 一定 二句

久甫一句 安多一句
去之 一句 可說 一句
真之 三句 玄依 一句
去利 一句

大坡之經

休甫 十又句

修勢山田之經

初園 一句 未民 一句
為去 一句 真功 二句
武清 二句 南榮 二句
利清 十六句 真潔 一句
文定 二句 孝信 九句

未祐 三句 元鄉 二句
正友 八句 正德 二句
復沃 四句 光真書 六句
系仁 四句 益光 二句
文性 四句 感彥 四句
正利 三句 弘濠 三句
不業 四句 久承 一句
感院 四句 唐在 三句
武安 二句 空性 一句
未昆 一句 常庵 二句
千世 一句 易勝 一句
去真 二句 中善 一句

常利一句 文章一句
清親一句 光貞二句
常勝一句 感常一句
重次二句 正滿一句
民久一句 未長一句
常好一句 惟至一句
未滿一句 覺玄一句
玄心一句 道的 一句
感親三句 貞感 一句
貞光二句 初心 一句
純傳一句 幸光 一句
未直一句 家久 二句

正孝一句 永民 一句
漢浪一句 旁成 一句
抱城一句 光帝 一句
孝家一句 正秋 一句
辰亥一句 道周 二句
文英一句 德康 一句
長昌二句 川權 一句
民音二句 孝義 一句
未光一句 長長 二句
良政一句 長純 一句
民指一句 正吉 一句
弘政三句 正次 二句

安海一句 真嘉一句

皇一世三句 正德一句

若久一句 威一六句

德一一句 民元一句

清一三句 然一二句

正系一句 仍一一句

松一一句 未結一句

俊一一句 造一二句

若澄一句 奇一一句

江戶之經

漢元七十六句 唯雪二句

友重一句 玄札七句

素正二句

因幡之經

出松二句 一成一句

句數合一千五百二十八句



